

北海道 芸術文化

No.69



▲全道から寄せられた子どもたちの力作の数々を熱心に鑑賞する来場者（「第4回こどもアール・ブリュット北海道みらい作品展」より）

繋がってきた芸術文化に今こそ活気を

北海道文化団体協議会
会長 下沢 敏也



当協議会事務所が札幌コンサートホールKitaraに移転して約3か月、Kitaraがある中島公園も冬から春へ少しづつ装いを変えようとしています。3年以上に及ぶコロナ禍も3月13日からマスクの着用義務が解除され、ようやく世界中がパンデミックから解放され始めてきたと感じています。

この3年間、芸術文化に限らず社会全体が経験したことのない試練に立たされました。改めて振り返ってみると、生活面では確かに大変なことが多くありましたが、すべてマイナスばかりかと言えば、そうでもない気がしています。今まで見えなかつたことや、かけがえのないものの本質に気付くことができたのです。文化というものは、やはり人と人が生きていく中で様々な営みを大切に繋いでいくことが最も必要なことであります。それが社会の下支えとなることを実感しています。

昨年第64回を迎えた北海道文化集会は、日中国交正常化50周年記念中国黒龍江省国際交流事業と併せて道立近代美術館を会場に展示、記念講演、コンサート、ワークショップ等の企画を開催し多くの来場者に好評を頂きました。無事に終了することができましたことを、関係の皆様に感謝申し上げます。

北海道の文化も、先人たちが歴史の中で育み築き上げてきたものです。今の疲弊した現状を、もう一度立て直し活気あるものにしたいと考えます。我々も北海道文団協としてできることを、皆さんとともに推進めてまいります。文化団体として、飛躍の一年にしていきましょう。

64th

北海道文化集会

日中国交正常化50周年記念

北海道・中国黒龍江省国際交流事業

展示する音楽と奏でる美術
～アートを心の力に。知ってつながるアートの輪～



▲集会初となる道立近代美術館での開催



▲絵画、版画、書など中国人作家からの寄贈作品の数々



▲多くの聴衆を魅了したHIMESメンバーによるコンサート



▲北海道新聞を退職後、
編集者・アートライターとして
活躍する古家 昌伸氏

続いて、HIMESのメンバーによるクラシックコンサートを開催。山本聖子「ヴァイオリン」、山田慶一「チェロ」、立花雅和「フルート」、近江宏「チェンバロ」が、”音楽の父”と呼ばれたJ.S.バッハ作曲の「音楽の捧げもの」を演奏しました。曲間には出演者による解説もあり、普段クラシック音楽に親しみのない方でも存分に楽しめる工夫が。会場は、バラック音楽のきらびやかな調べに満ちていました。

昌伸氏による講演「北海道の豊かなカオス再発見～地域の文化を記録する」。同氏がかつて北海道新聞文化部長として携わってきた、北海道の芸術文化における”記録保存－アーティスト－”の重要性について説きました。

11月3日「音楽を展示する」

11月6日〔美術を奏でる〕

最終日は、唐澤昌宏、佐藤友哉、そして下沢敏也の三氏によるトークセッションからスタート。「北の美の行方」と題し、北海道の芸術や文化がどうあるべきなのか、どう展開していくべきなのか、それぞれの活動を踏まえた熱いトークが繰り広げられました。このセッションを通じて、長年継続されてきた文化集会の開催意義を改めて認識する機会となりました。

そして、中国人演奏家・阿斯罕^{アスハン}による馬頭琴コンサートでフィナーレを迎えます。プログラムは、故郷^{アスハン}を思わせる選曲で、彼の故郷であるモンゴルの民謡や、日本人に広く親しまれている「ふるさと」など全9曲を披露しました。

▲北海道・札幌文団協
および北海道陶芸
協会会長
下沢 敏也氏

▲国立工芸館館長
唐澤 昌宏氏

▲美術評論家、
前札幌芸術の森
美術館館長
佐藤 友哉氏



▲馬頭琴を演奏する阿斯罕



▲熱心に縄文土器づくりに
打ち込む親子

日中国交正常化50周年記念展示

黒龍江省との文化交流再開に期待

コロナ禍で対面の交流を控えていた中國黒龍江省との文化交流の再開に向け、3月9日に下沢敏也会長が駐札幌中國総領事館を訪問。夏少傑総領事代理と面会し、今後の交流への協力を要請しました。夏総領事代理からは、長年にわたる文化交流の実績に高い評価をいただきましたとともに、今後の交流への全面的な支持が表明されました。

夏総領事代理を中心下沢会長(左)と伊藤裕子事務局長。



親子で参加できる! 縄文土器ワークショップ

北海道文化集会 ワークショップ

「縄文土器づくり体験」

縄文土器をモデルに、粘土で面白い小

物をつくってみよう!

○会場 2階造形室

○講師 障がい者就労支援事業所

いるば28

●講師 障がい者就労支援事業所

いるば28

そうした状況にあつても昨年は日中国交正常化50周年という重要な節目の年にあたることから、北海道文化集会でも、『交流展』を企画。これまでに黒龍江省から贈呈された絵画、版画、書の展示に加え、今回の文化集会のために黒龍江省から届いた映像による「冰雪山水画」の作品集と京劇のステージを放映し、多くの来場者の目を楽しませました。

感染防止対策のため定員を少人数に設定し、3回に分けて開催。親子連れなど計32名が参加しました。参加した方は、道内遺跡から出土した縄文土器や土偶から刺激を受け、器や置物等を自由な発想で制作し、講師の方々と言葉を交わしながら楽しんでいた様子が伝わってきました。講師を派遣した「いるば28」で焼きと仕上げが施され、2週間ほどで参加者のもとに届けられました。

YouTubeで公開中!

各イベントの様子を YouTube でご覧いただけます。
この機会にぜひチャンネル登録を!

- ・講演「北海道の豊かな〈カオス〉再発見～地域の文化を記録する～」
- ・コンサート
- ・アートトークセッション
「北の美の行方」
- ・馬頭琴コンサート

北海道文団協ch
39live.jp/bdk



ここから見てね。

北海道文化団体協議会各賞が決定

「北海道における芸術文化の高揚に尽くされ、業績を上げた個人または団体」を対象に顕彰する北海道文化団体協議会各賞が決定し、11月3日（木・祝）北海道文化集会 開会式内で授賞式が執り行われました。

令和4年度は、芸術賞1個人、道文団協賞1個人、道文団協奨励賞3団体に贈られました。

第52回道文団協賞



真下 教子

個人／バレエ
札幌市

昭和49年からバレエ研究所を主宰、多くの優れたダンサーを育成。令和2年から日本バレエ協会北海道支部長を務め、札幌洋舞連盟においても中心的役割を担う。

第29回芸術賞



西田 陽二

個人／絵画
札幌市

令和3年から北海道で32年ぶりとなる日展洋画会員。星槎道都大学特任教授として後進の育成にも尽力し、札幌文化団体協議会理事・展示副委員長として芸術文化の振興に貢献。

芸術賞

活動の場を広げた
文団協との出会い

西田 陽二

この度の「北海道文化団体協議会・芸術賞」の推薦をして頂いた、内田弘先生や選考委員の皆様に感謝申し上げます。私が初めて文団協に参加した時は美術団体としてでしたがが、最初に出会った方々のその道でのレベルの高さや人間性の深さに驚いてしまいました。その後に文団協の色々な文化活動に参加し、お手伝いをしているうちに今まで私が所属していた北海道美術の人間関係がとても狭く、社会からも孤立したもののように思え北海道の美術団体から離れることになりました。

私は10代の頃から「絵描き」になることを目指していましたが、「絵描きは食えない、絵描きなど社会に必要な」など周囲から反対され続けてきましたから、「絵描き」が社会の一員として認められるることは人生の課題でもありました。「絵描きは良い作品さえ描いていればそのうち

受賞者から喜びの声

社会が芸術家として認めてくれるなどといった類の幻想は随分と以前に捨てました。

現在、私は職業としての作品以外にライ发挥作用として、「北海道の文化人シリーズ」に続き、「北海道のアスリート」の肖像画を描いています。月に一作品ぐらいのペースですが、「北海道の文化や誇り」を肖像画で社会にアピールしたいと考えております。

このような活動が出来るのも文団協に所属していたからこそです。これからも文団協の一員として自分なりに出来ることを模索して参りますので宜しくお願い致します。

道文団協賞

バレエの道を歩み続けて

真下 教子

この度は、思いがけず「北海道文化団体協議会賞」をいただき、驚きと喜びでいっぱいです。

好きという一心で、このバレエの道を歩み続けられていることに心よ



興部ドゥリーム・コール

団体／合唱 興部町

代表 藤武 里恵子

平成元年設立。全日本おかあさんコーラス大会にて平成24年「おかあさんコーラス賞」平成27年「ひまわり賞」を受賞。



幕別町文化协会

団体／文化活動 幕別町

会長 宮本 彰

昭和43設立。現在は70団体、714名の会員が活動し、地域の文化振興・文化交流に努めている。



釧路文学団体協議会

団体／文学 釧路市

会長 駒板 芳夫

昭和33年設立。東北海道唯一の文学団体として、地域の文学関係者の相互理解と創作意欲の向上に寄与。



芸術賞の西田 陽二氏(中央)、道文団協賞の真下 教子氏(左から2人目)、奨励賞の興部ドゥリーム・コール代表 藤武 里恵子氏(左端)。授賞式には北海道庁より塚田 みゆき文化局長(右から3人目)も駆けつけた。

り感謝です。今まで多くの方々から山ほどの大きな学びを……そしてご指導いただいたことで、今の私があると思っております。バレエは総合芸術として照明……舞台美術……音楽……バレエのテクニック……その全ての調和が取れて初めて素晴らしい舞台が出来上がります。踊りだけでは成り立ちません。これまで携わつてくださった方々のご尽力に敬意を表します。

今度の乱れたこの世の中ではあります。が、文化芸術の道を歩んで行ける人たちには一人でも多く参集していただきたく思っております。そして、これからも北海道の大地に輝きの種を蒔いて、文化芸術の美しい花が咲く日を楽しみにして参りましょう。この度の受賞に心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



第4回

こどもアート・ブリュット

北海道みらい作品展



障がいがある子もない子も同じ場で
自由に輝くアートの未来。

令和4年8月19日(金)～21日(日)
札幌文化芸術交流センターSCARTS
2階モールCにて開催

自由な発想を社会に向けて
発表できる場所

令和元年に当協議会主催の新たな取り組みとしてスタートした本展は、全道の小中学校・特別支援学級を含む全ての義務教育学校及び中等教育学校、特別支援学校の小学部・中学部の児童生徒を対象としています。主に絵画・書道・工芸など平面作品、一部陶芸など立体作品と幅広く作品を募っています。コロナ禍の中でも年々申込者数は増えており、昨年は466人から463点の出品があり、会期3日間の来場者は800人を超えました。

新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、子どもたちは様々な体験や発表の機会を奪われてきましたが、本展は、子どもたち一人一人が自宅でも取り組める表現制作を皆と一緒に場で

展示発表し、自由に学ぶ機会となっています。
令和5年は8月18日(金)～20日(日)に、札幌文化芸術交流センターSCARTSで開催します。地域全体で子どもの福祉や教育文化活動の振興を図り、未来の人材を育んでいけるよう、作品展の発展と継続を目指しています。

△新たに試みる移動展の開催

入賞作品を道内で巡回して展示する「移動展」を初めて開催しました。これは札幌市以外の道内各地域においても本展の意義を浸透させ理解を深めることが目的です。すでに次回開催を希望する自治体や団体から手があがつており、少しづつではありますが、活動が広がっています。

△令和4年度移動展開催地

△9月1日(木)～16日(金)
まるひこアートスペース和^{なごみ}
(札幌市豊平区)
△9月30日(金)～10月2日(日)
コーチャンフオーレ釧路文化ホール
共催・釧路市芸術祭実行委員会
△11月9日(水)～13日(日)
広尾町児童福祉会館大ホール

全道シルバー作品展

第33回全道シルバー作品展には、絵画26点、書14点、写真24点、工芸18点、短詩型74点の合計156点の出展があり、どの作品もエネルギーに満ち溢れ、来場者の目を惹きつけていました。入賞者をご紹介します。

北海道知事賞紹介



前田 敏雄（写真／恵庭市）

「寝ぐらに帰る」

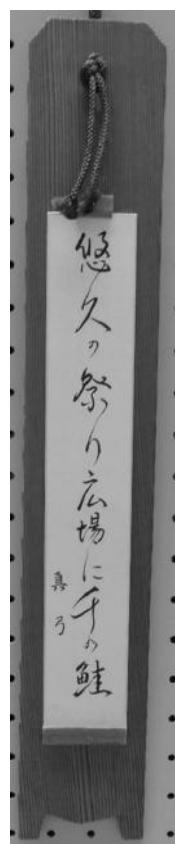
評／今年の展示作品全体を見て感じたのは、写真を撮影するということは、撮影者がそれぞれの立ち位置で、この世界の中から「写真という構図」を発見することだ、ということである。前田さんが写した丹頂鶴の群れは夕暮れ時、空が黄金色に染まり、雲と鶴の群れが相まって形よく構図に収まっている。空、雲、鶴という単純な要素で写された写真であるが、場所性が消されている分、何度も見返しても見飽きない。



小林せい子（絵画／中標津町）

「あやみさん」

評／若い女性の美しさやみずみずしさを素直に表現した力作です。画面のすみずみまで、丁寧に描かれています。



鷲見 孝子（工芸／千歳市）

「織物・ストール（二十歳の孫へ）」

評／長尺ストールで、お孫さんの成人を祝う心のこもった慈愛に満ちた作品です。おばあちゃんとして小さい子供の時から可愛がっていたお孫さん。大人となり、近いうちに就職して家を出ることになるかもしれないお孫さんへ、一針、一針に思いを込めた制作の姿が見える秀逸な作品です。

中矢 真弓（俳句／石狩市）

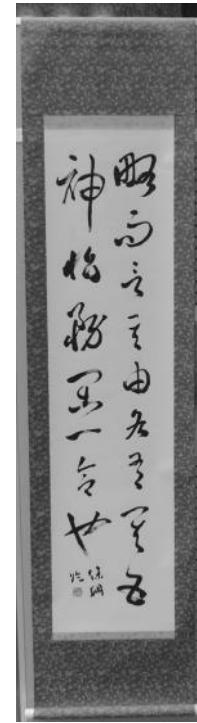
「悠久の 祭り広場に 千の鮭」

評／長年続けられる催事広場、コロナ禍の中で数年ぶりの開催なのだ。貴重な鮭を山と積み上げ景品とするのだろう。好漁を祝い祈る町民の気持ちが表れる。

会期	令和4年9月30日（金）～10月4日（火）
会場	道民活動センター（かでる2・7）展示ホール

北海道知事賞	
中矢 鷲見	前田 益井
真弓 孝子	敏雄 保綱
86歳	88歳
歳	歳
（俳句）	（写真）
（工芸）	（書）
（絵画）	

北海道社会福祉協議会会長賞	
酒井 達内	辻ノ内 麗水
80歳	82歳
歳	歳
（川柳）	（写真）
（工芸）	（書）
（絵画）	



益井 保綱（書／栗山町）

「書譜」

評／古典（書譜）に正面から向かい、自然な呼吸でリズム良く書き通して品位ある作とした。更なる今後の取り組みを、心から期待しています。

北海道文化団体協議会会長賞	
星野 三田 悅子	森崎 朝子
75歳	66歳
歳	歳
（短歌）	（写真）
（工芸）	（書）
（絵画）	

札幌市長賞（特別賞）	
滝澤 成澤	加藤 房野
95歳	97歳
歳	歳
（工芸）	（書）
（短歌）	（工芸）
（絵画）	

令和4年度 道民芸術祭

道民芸術祭は、道内文化団体の技量向上と交流の促進、そして多くの道民に鑑賞の機会を提供することを目的としています。

今年度は、新型コロナウイルスによる行動制限が少しずつ緩和されたため、各地でかつての賑わいが戻ってきたようです。来年度は、より活発な活動ができるこことを期待しています。



日高管内文化団体連絡協議会



檜山管内文化団体連絡協議会



渡島地方文化団体連絡協議会



後志管内文化団体連絡協議会



十勝文化団体協議会



宗谷管内文化団体連絡協議会



釧路地方文化団体連絡協議会



石狩管内文化団体協議会



胆振文化団体協議会



上川管内文化団体連絡協議会



留萌地方文化団体協議会



網走管内文化団体協議会

活動状況

根室管内文化協会連絡協議会の現状

根室管内文化協会連絡協議会
会長 大友敏春



根室管内文化協会連絡協議会は、根室市・別海町・中標津町・標津町・羅臼町の1市4町の文化協会で構成し、会長職及び事務局

は2年の輪番制で、現在羅臼町が担当しています。活動の柱である「総合芸術展」「民謡のつどい」「文芸大会（『文芸根室』の発行）」の3つを各市町が1年毎担当し、連絡調整・地方文化の振興に取り組んでおります。

何かと自粛を求められる文化活動ですが、工夫と感染防止対策の徹底・各団体や参加者の協力により、全ての事業を実施することが出来ました。

総合芸術展（標津町開催）で

は、絵画・彫刻・書道・写真・陶芸の5部門で作品計107点を展示、民謡のつどい（別海町開催）では7団体が沢山の演目を発表し、多くの来場者を得ました。

『文芸根室』（根室市）は、俳句、短歌、川柳、詩、創作部門の計128作品を掲載し、先月発行となりました。

コロナ禍の厳しい環境の中でもコツコツと文化活動に取り組んでいる方々に発表の場を提供できたことは、私たちにとっても大きな喜びであり意義のあることです。

また、文化活動は個人で鍛錬するだけでなく、発表や鑑賞をとおして人と交流することが更なる喜びや楽しみ、そして地域の元気に繋がるのだと改めて実感したところでございます。今後も各機関や団体等と連携し、取り組みを絶やすず続けて参りたいと思います。

最後になりますが、道内関係団体の皆様のご健勝と益々のご発展・ご活躍を心からご祈念申し上げます。



国民文化祭について

毎年開催県から要請を受けて、該当する分野から会員を派遣している国民文化祭。第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭「いしかわ百万石文化祭2023」は、令和5年10月14日(土)～11月26日(日)、金沢市のいしかわ総合スポーツセンターほか県内各会場で開催予定です。

なお、昨年の「美ら島おきなわ文化祭2022」は該当分野の要請がなく、また新型コロナウィルスの全国的な感染状況を鑑み、会員の派遣および事務局による視察は行いませんでした。

令和5年度 文団協事業予定

- ▽ 4月～2月
 - ・令和5年度道民芸術祭（全道14管内各会場）
- ▽ 4月14日（金）
 - ・北海道文団協「役員会」
- ▽ 5月11日（木）
 - ・全道14管内会長会議（札幌市資料館研修室）
- ▽ 5月14日（金）
 - ・北海道文団協「総会」（札幌市資料館研修室）
- ▽ 7月14日（金）
 - ・東北・北海道芸術文化団体協議会「総会」
- ▽ 8月18日（金）～20日（日）
 - ・創立50周年記念シンポジウム（宮城県）
- ▽ 8月18日（金）～20日（日）
 - ・子どもアート・ブリュット北海道みらい作品展（札幌文化芸術交流センターSCARTS 2階）
- ▽ 9月下旬
 - ・こどもアート・ブリュット北海道みらい作品展（札幌文化芸術交流センターSCARTS 2階）
- ▽ 10月14日（土）～11月26日（日）
 - ・第60回道北文化集会（剣淵町）
- ▽ 10月13日（金）～10月17日（火）
 - ・全道シルバー作品展（かでる2・7）
- ▽ 10月28日（土）～31日（火）
 - ・第38回国民文化祭
- ▽ 11月19日（日）
 - ・「いしかわ百万石文化祭2023」（石川県）
- ▽ 日程未定
 - ・第35回全国健康福祉祭えひめ大会
ねんりんピック笑顔のえひめ2023美術展
- ▽ 北海道・中国黒龍江省国際交流事業

事務所移転および

電話番号変更のお知らせ

札幌市教育文化会館の改修工事に伴い「札幌コンサートホールKitara」内に一時移転しました。

《移転期間》令和6年9月30日まで(予定)

《移転先住所》〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番15号(地下鉄中島公園駅から徒歩7分)

《TEL》011-211-8633 《FAX》011-211-8644

お知らせ

参加団体募集 令和5年度



プロジェクト

〈対象分野〉

舞台芸術（舞踊、音楽、演劇、伝統芸能等）、展示発表（絵画、書、いけ花、陶芸、現代美術等）、その他（茶道、短詩型等）各

団体の発表会等や14管内単位で実施している道民芸術祭等も対象とします。

〈対象団体〉

北海道各地域で日頃から地道に続けてこられた芸術文化活動を、動画で全国にPRし、地域

〈対象となる動画〉

の会員を窓口として申し込める団体。

振興を目的とする動画配信企画が「マイTown*マイArtプロジェクト」です。初年度の令和4年度は3団体からの応募を受け付け、北海道文団協公式

YouTubeチャンネルで配信しました。来年度も会員・団体の皆様からのご応募お待ちしています。

〈制作費助成〉

採用された動画に対し、3万円を助成します。ただし1会員につき1回のみ。

※

詳しい応募方法は、北海道文団協のホームページをご覧ください。

令和4年度 応募作品の紹介

- ・札幌文化団体協議会
「第50回記念SAPPORO
ぶんだんきょうフェスティバル」
茶道（お茶のしつらえ）
- ・北海道フラダンス協会（オープニアケハウオカラニKeikoフラ教室）
「Oni ana ka mana'o
～こころ揺さぶられて～」
- ・北海道民謡連盟
「Young-衆 ぶらり旅（道南編）」

北海道文団協ch

39live.jp/bdk

チャンネル登録



北海道芸術文化（道文団協広報）

第 69 号

2023年3月25日発行

北海道文化団体協議会

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール Kitara

電話 (011)211-8633 FAX (011)211-8644

E-mail : bundankyo@msj.biglobe.ne.jp

ホームページ: http://doubun.wp.xdomain.jp/

○○ あとがき ○○

趣味でJRや車で道内をめぐるようになり、もう数年。コロナも落ち着いてきましたので、タイミングが合えば、各地で開催される道民芸術祭にも伺いたいなと思っています。制限なく芸術文化活動ができる日常が少しづつ戻りつつあることに、感謝したい今日この頃です。(Y・M)